

富士山トレーニング (富士山山頂 剣が峰を望む)



山城 富士山 2019年9月6日 メンバー エミ (記)

馬返し 5:14—一合目 5:23—二合目 5:50—三合目 6:07—四合目 6:26
—佐藤小屋 7:09—六合目 7:48—七合目花小屋 8:42—八合目赤い鳥居
9:29—本八合目 11:14—九合目 12:52—13:35 山頂 14:00—六合目
16:31—佐藤小屋 16:54—三合目 17:58—馬返し 18:47

この吉田口ルートは一合目から五合目（佐藤小屋）、また六合目の登山安全指導センターまでは、歴史的な史跡が多く江戸時代を中心に参詣道として利用されていたようだ。当時、女人禁制の富士山では、女性は二合目までしか登らせてもらえなかった。解禁になった現代に感謝しつつ一合目からの1day登山をスタートする。

夜明けを待って馬返しからスタートする。白い石造りの鳥居をくぐり、古道（登山道）を登って行く。この鳥居の脇には狛犬の代わりにお猿が鎮座してる。三合目までは小一時間で、所々に石畳み、また石造り、木造の水切りのある登山道を登って行く。すでに明るくなった広葉樹林帯の登山道はさすがらしく、新緑の季節のような錯覚お



石造りの白い鳥居

こす。次第にコメツガやカラ松等の針葉樹林になって行き、四合目の展望台では、河口湖や忍野村、山中湖が眼下に広がり、以前鳥居地峠から杓子山～石割山へ縦走した尾根が見えた。佐藤小屋には7時前に通過した方が

良いと、鳥切さんにアドバイス頂いたが、通過は7:09になってしまった。下から2時間は切っているが、ちょっと残念。山頂は13時までの到着を目指してと、金井代表のアドバイスも頭をよぎる。本日は快晴で六合目までの針葉樹林帯を抜けると急に空が開け、そこには富士山の赤茶色い山肌がドーンとそびえていた。太陽をさえぎる



六合目付近

木々もなく、ここからは太陽にさらされるが眺望は期待できる。

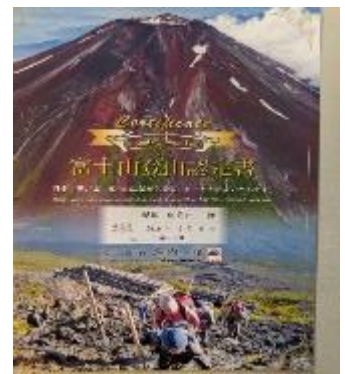
7:48 安全指導センターの脇からジグザクと軽い小石と砂の上りルートに登って行く。下山は下りルートに分かれている。軽い腰痛が気になる。しばらく行くと最初の山小屋、花小屋が見えてきた七合目だ。また、ここからは岩場になってくる。このあたりから本格的に腰が痛みだしてきてロキソニンを服用する。さらに岩場が八合目まで続く。本八合目で下りルートとの合流になっている。やっと少し日差しが雲に覆われてきた。快晴で絶好の登山日和でもこの暑さでは辛い。周りの登山者（外国の方が大変多い）も暑さでかなり辛そうだ。以前泊まったことのある山小屋トモエ館の前を通り、最後の登りの力を振り絞り九合目～13:35 山頂へと到着する。本八合目あたりから、ずっと私の後ろにいらした外国の方、最初は男性と思っていたが、途中で体格のよい女性とわかった。辛い登山をつかの間ご一緒でき、山頂で You're great と称えあい握手をして別れた。



吉田口山頂扇屋と雲海

山頂では眼下に雲海が広がり眺望はあまり良くなかったが、雲のはるか上にいることを実感できた。写真を撮って頂

いた扇屋では、2泊3日で田子の浦海拔ゼロから登頂したソロの女性がい
らした。富士山頂へは様々な目指し方があるのだと感心した。本日は日帰
りなのでのんびりしている余裕はない、お鉢巡りは次回にしようと決め
14:00 下山開始した。ダブルストックで下って行く。鎮痛剤が効いたの
か、腰の痛みは気にならず軽快に下れる。ただ砂ぼこりがひどく、また油
断してると小石まじりの砂で滑ってしまう。下山ルートの注意点で、八合
目で須走ルートの分岐がある。間違えて須走ルートへ行く人がいるので気
を付けるようにと、ここもアドバイスを頂いていた。分岐では誘導灯を振
っている係員が、須走ルートとの分岐に立っていた。シーズン中は誘導員
がいるが、オフシーズンは間違えないように気をつけなければならない。
七合目を過ぎ落石防止シェルターを3つくぐって六合目の登山安全指導
センターへ到着した。ここから麓まで下って行くのは私ひとりだけのよう
だ。五合目バスターミナルへ向かう人の流れから離れ、ひとり吉田口へと
下っていく。暗くなる前に麓まで戻りたい。キャップラ
イトを準備して佐藤小屋を通過する。疲れが脚にきて
るようで、頭のなかで思うような速度では下れない。三
合目あたりから薄暗くなってきた。二合目～一合目と
次第に暗くなり真っ暗闇のなか馬返しに帰着した。



麓からの登頂認定書 富士吉田市